地方小都市における子供の遊び場

—福井県勝山市の小学校別平日の放課後の実態—

CHILDREN'S PLAY SPOTS IN PROVINCIAL SMALL CITY

—After school situation of Katsuyama, Fukui—

葉袋奈美子 —*1

堀部修一 —*2

Namiko MINAI —*1

Shuichi HORIBE —*2

キーワード:

子ども, 勝山, 遊び場, 農村, 遊び仲間, 住環境

Keywords:

Children, Play spots, Farming area, Friends, Living environment

Play spots in provincial small cities have not been observed carefully recently. This paper reveals actual play spots of after school children in Katsuyama-city (Fukui Pref.), to collect information for future upgrading of living environment.

The data shows that children in the farming villages tend to play at the children center, which is prepared one in each school district. Playing with natural flowers or insects or exploring of the neighboring district is more common for children in town.

Many children play with their school friends rather than brothers, sisters or different aged neighbor friend.

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

子供が成長する過程での屋外における多角的な遊びの重要性は、様々な場で指摘されている^{注1)}。そしてこれまでも、子供が屋外で遊ぶための様々な試みが行われてきたことも周知のことである。しかし、これまで多くの研究や実践は、都市部の子どもの遊び環境に注目した取り組みが多かった。農村での子どもの遊び環境についても行われてはいるものの、近年では公園やその他遊戯施設の計画をするという視点からのものはあるものが中心で^{注2)}、加賀谷や木下らの指摘^{注3)}するような日常生活環境の中での遊び場がどこであるのかという視点での調査は十分に行われていない。また学校で週5日制が導入され始めて5年を経過し、殆どの児童が、平日には比較的遅い時間まで学校で過ごすことが増えた小学校生活を送ってきた。今、遊び場と遊び方がどのような状況にあるのかという点について確認することは、今後居住地の整備を子どもが自由闊達に遊ぶことのできる空間づくりとするにあたって重要である。

本研究では、地方都市において、都市部内ばかりでなく郊外の農村集落も対象として、どのような場で子どもたちが遊んでいるのかの実態を整理する。特に日本海地域の積雪のある勝山市を対象として調査を行い、遊びにくい条件の下での地方小都市における子供の遊び場の実態を把握することを目的とする。

1.2 調査の概要

2007年3月に、勝山市内の小学生に対してアンケート調査を実施した。学校を通して配布を依頼し、学校で或いは家庭に持ち帰って、記入された。特に低学年については、家庭で親の協力を得て記入が行われたとの報告である。勝山市内全9校(図1参考)の在校生1410

図1 勝山市内の小学校の配置

表1 アンケートの回答状況

学校	北郷	荒土	野向	鹿谷	三室	村岡	成器西	成器南	平泉寺	合計
児童数	97	118	28	107	45	240	239	476	60	1410
回収枚数	75	113	27	98	44	224	216	433	57	1287
%	77.3	95.8	96.4	91.6	98	93.3	90.4	90	95	91.3

名に対して、回収されたのは、1286通であり、その詳細は、表1に示すとおりである。

アンケート項目は、一部の項目を除いては選択式とし、基本的な生活環境を確かめた上で、平日と休日に分けて、好きな遊び場やよく遊ぶ遊び場を聞いた。更に、よく遊ぶ遊び場についてどのように、誰と遊ぶのかをたずねた。最後に過去一週間の学校以外での時間の過ごし方をたずねた。なお、本稿ではこの調査のうち、平日の遊び場について、小学校区を単位とした分析を中心に報告する。

*1 福井大学大学院工学研究科建築建設工学専攻 講師
(〒910-8507 福井市文京3-9-1)

*2 福井大学大学院工学研究科建築建設工学専攻 博士前期課程

*1 Lecturer, Faculty of Engineering, University of Fukui

*2 Master Course, Graduate school of Engineering, University of Fukui

1.3 勝山市の様子と分析について

勝山市は福井県の北東部の県境にある自治体で、人口約2万7千人、山に囲まれた地域で、九頭竜川に沿った河岸段丘に市街地がある。冬は豪雪地帯として知られ、平成18年度の降雪は、平地部では少なかったものの、通常は12月から3月までは市街地でも積雪がある。

勝山市内の居住地の様子について、本稿では大きく「密集地域」と「集落地域」との2つに分けて考えることとする(図1)。「密集地域」とは、文字通り住宅が都市的に密集して建てられている地域にある小学校を指す。主に勝山市の中心部にあたる

地域で、都市計画上也用途地域の指定がされ、公園を含めた都市基盤が都市的に整備されている地域を指す。成器西小学校、成器南小学校、村岡小学校がそれにあたる。一方「集落地域」とは、小規模な集落が点在している地域をさす。農村地域がこれにあたり、児童数も少なく、都市公園のような遊び場は用意されていない。

2. 放課後の遊び

2.1 遊び場

勝山の子供達の遊び場として考えられるものの中から^{注4)}、よく遊ぶ場所を複数回答で尋ねた。更にその中でも一番よく遊ぶ場所、及び一番好きな場所に各々一つ〇をつけてもらう方法をとった。図2は、放課後の遊び場として回答されたデータの中から、回答数がいずれかの小学校で、10件以上あったものを整理したものである。

全体的に「自分の家」で遊ぶ割合が高い。「密集地域」では、友達が近くにいるためか「友達の家」で遊ぶ割合も、自宅の庭で遊ぶのに匹敵する数が見られ、友達の家との頻繁な行き来が伺える。なお、集落地域でも、比較的生徒数の多い北郷、荒土、鹿谷では、「友達の家」で遊ぶ割合は高い。これは比較的住居が建て込んでいる地区もあり、児童の友人宅への行き来が容易であることが背景にある。

村岡や平泉寺、そして野向の各小学校では「小学校」で遊ぶ割合も高い。遊びの拠点として活用されていることがわかる。

「密集地域」では、都市計画で整備されている「公園」で遊ぶ割合も高い。市街地には不足するオープンスペースを補う目的で整備される公園であるが、屋外遊びを最も促進する空間としての役割を果たしていることがわかる。また、「道路」「駐車場」「空き地」という遊ぶことを本来の目的とはしないものの、遊び空間として日常的に活用しうるオープンスペースをうまく使って遊んでいる様子が伺われる。

農村部を中心とする「集落地域」では、児童センターで遊ぶ割合が非常に高い。特に三室、野向や平泉寺では、児童センターで遊ぶ児童の割合が高い。これは、放課後児童クラブに入っている児童の割合が、比較的高いことが背景にある^{注5)}が、平日の放課後の遊び場として、中心市街地から離れた農村部のほうが、より施設内で

図2 勝山市内小学校別放課後の遊び場

の限定的な遊び方が多く見られることがわかる。アンケートでは、年間通しての遊び方を聞いたが、調査時期が3月で寒い時期だったため、屋外での遊びがおこないにくい状況であったことも原因のひとつと考えられる。しかし、そもそも近隣に遊び仲間がいなかったために、児童センターに行かなければ遊び仲間を見つけることが困難な状況があると推測される。また両親とも働いている世帯では、児童センターで留守家庭児の過ごす場である放課後児童クラブに所属する児童が多く、それらの児童を中心として放課後の遊び場が、児童センターに限定されるのであろう。

荒土小学校の児童の多くが「神社」を遊び場としている点で注目される。荒土地区は、農地が近年急速に宅地化されている地区である。宅地化された場所に多くの児童が住み始め、公園に準じる空間として神社が活用されていると考えられる。

2.2 放課後の遊び内容

遊び方について、一番よく遊ぶ遊び場での遊び方に限定して尋ねた。その上で、具体的に遊び方の例を挙げ^{注6)}、複数回答の上、一番よく行う遊びを選ぶという方法で質問をした。図3にその結果のうち、10件以上の回答のあった遊び方について整理をした。多くの学校では「おにごっこ」や「かくれんぼ」、「自転車／一輪車」、「ボール遊び」といった広い空間を必要とする遊びをする児童が多い。「おにごっこ」や「かくれんぼ」は、一人二人で遊ぶのは楽しくなく、大勢で遊ぶことの多い遊び方である。こういった遊びがどの地区でも多いことは、子供たちが放課後の時間を集団で過ごす機会を得ていると考えることができよう。「雪合戦」などの雪遊びも全体的に高いことは、勝山の豪雪地帯である特徴を活かした遊びが展開していることが示される。

特に一番よくする遊びとしてボール遊びを挙げている児童が多い。児童館の限られた空間と遊び道具の中でも、子供たちが楽しむことのできる遊び方が多々あり、人数の多少に合わせて様々な遊びが展開できること等、様々な背景が考えられる。

荒土、鹿谷では、ほかの地区に比べて、「自転車／一輪車」という遊び内容が多い。また、野向、三室、平泉寺を除く地区では「カードゲーム」「ゲームボーイ(電子ゲーム)」等の割合も高い。

集落地域

集落地域

力

障害者の

環境
る。

また、遊び場の種別に遊ぶ人数を図6に整理した。児童センターでの集団遊びが遊び人数として際立って多いが。それについて人数多く遊ぶのは、神社である。自宅以外のほかの場所では、数名での遊びが多いことがわかる。

3. まとめ

- 勝山市における児童の遊び環境について、以下のことがわかった。
- 1) 「集落地域」では、多くの児童が児童センターを中心に遊んでいる。
 - 2) 「密集地域」の児童は、公園での遊ぶ割合が高いことに加えて、道路、駐車場、空き地といった、身近な生活環境を利用した遊びを展開している。
 - 3) 神社のような従来から自然多い公共施設ばかりでなく、身近な道路、駐車場、空き地といったところでの自然遊びも多く見られる。これは「密集地域」の児童により多く見られる。
 - 4) 全体にクラスの友達と遊ぶ割合が高い。しかし、住宅の密度の低い「集落地域」を中心に、兄弟との遊ぶ割合が高まる。
 - 5) 比較的大勢で遊ぶことが多い。平日の児童センターでの遊びを中心に5人以上で遊ぶ遊びが多いことがわかった。

以上が、データからわかることであるが、これを踏まえて考えると、勝山市内における児童の遊びについては、豊かな自然を享受した遊びを、「集落地域」よりも住宅の密集する市街地内の「密集地域」ほうが実現していると言えよう。一方異年齢間での遊びにつながる兄弟で遊ぶ割合は、一部の「集落地域」でより多く見られていた。遊びは空間を整えるだけで拡がりを持つものではない。農村集落での人口が少なく遊び仲間が身近にいない問題、車中心の生活で住宅地内の道路でさえ車が多数通る問題等を総合的に考えることで、子供たちは、身近な生活環境も使った遊びを展開することができるようになるだろう。

【謝辞】

本調査にあたっては、勝山市教育長及び各学校の先生方に、多大な協力をいただいた。ここに御礼申しあげる。またデータの入力・分析に協力してくれた福井大学工学部の山下君へも謝意を表したい。

【注】

- 注 1) 参考文献 1) 2) 等多数ある。
- 注 2) 参考文献 3) 4) のほか、5) のような論文があるが、古いものが多い。
- 注 3) 例えば木下は参考文献 2) の P8 で、「子どもの遊びと街の関係 概念図」を描いて、子どもたちが街の中で様々な係わり合いを持ちながら育つことの重要性を指摘している。
- 注 4) 2006 年夏に、「おいでねんせ 勝山のイトコおしえます」と題した、身近な遊び場を描かせる絵画コンクールで描かれた（登録票に記載された）遊び場を、勝山の児童の身近な遊び場として、挙げた。なお本コンクールは、日本建築学会 120 周年記念事業北陸支部絵画コンクールとして実施された。アンケート内に挙げた他の遊び場は以下の通りである。
小学校、自分の家、おじいちゃん・おばあちゃんの家、田んぼ、畑、ひまわり畑、公民館、ふれあい会館、市営体育館、B&G 海洋センター、勝山城、長山公園、恐竜博物館、ラプリー牧場、キャンプ場、九頭竜川、弁天河原（グラウンド）、大清水、たらたら山、村岡山、大師山、他の山、他のお店、スキー場、公園、お寺、神社
- 注 5) 放課後児童クラブへの加入割合は図 7 に示す通りである。
- 注 6) 遊び方の例として、表 2 に示すものを挙げた。遊びの種類とともにここに示す。

図 6 勝山市内遊び場別遊び人数

【参考文献】

- 1) 加賀谷真由美：2001 年、こどもとつくる遊び場とまち遊び心がキーワード、萌文社
- 2) 木下勇：遊びと街のエコロジー、エコロジー建築・都市 003、丸善株式会社、1996 年
- 3) 青木恭介、松本純一郎、角舎輝典、木村健一：地域施設としてのこどもの遊び場計画の試み 柴田町富上農村公園基本計画、日本建築学会技術報告集 第 3 号、255-288、1996 年
- 4) 内平隆之、山崎寿一、重村力、北聖志、黒川祐樹：子どもの自然体験遊びからみた農的環境の役割（尼崎市武庫庄の場合）一環境教育からみた農村の環境資源の活用に関する研究 その 3 一、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp499-450、2000 年
- 5) 長谷川 百寿、坂田 尚子、杉浦 進、西村 伸也：積雪時と非積雪時における子どもの「遊び」と「遊び場」に関する調査、日本建築学会大会学術講演梗概集 E、pp. 275-276、1987 年
- 6) 大庭由利江、仙田満、中山豊、三輪律江：住宅地におけるこどものあそび道に関する基礎的研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、p p 389-390、2002 年
- 7) 荻野雅俊、大原一興、小滝一正、藤岡康寛：既成市街地における子どもの遊び空間に関する研究一金沢八景地区を対象として、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp161-162、2002 年
- 8) 鈴木孝治、清水裕之、有賀隆：長久手町における遊び場空間嗜好に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp775-776、1999 年
- 9) 社団法人日本都市計画学会：特集 子どもとまちづくり、都市計画 No202、1996 年

[2007年10月19日原稿受理 2008年 2 月 7 日採用決定]